

佐渡トライアスロン参戦記

9月1日福岡空港朝一番の便で新潟を目指す。

出発が15分ほど遅れたが約2時間の快適な空の旅だった。

新潟到着後、新潟港へタクシー移動。

佐渡行きのジェットfoil乗場で曾祢さんと合流し約1時間で佐渡両津港到着。宿泊先の『浦島』さんのシャトルバスの送迎が嬉しい。

で、ここで思わぬ事実を聞かされる。(その1)

なんと、曾祢さんと相部屋。年甲斐もなくときめく。

ドキドキしながら到着後ランチをいただきました。箸で。

その後、バイクを組み立てて選手登録会場までバイクで移動。

登録・競技説明会を終えエキスポ会場をうろうろ。

チャンピオンシステムのブースを覗くと聞き覚えのある人がいた。

チームジャージの製作でお世話になっている担当の方だ。

電話でのやり取りは6年程してるが初の対面が嬉しかった。

お土産にボトルいただきました。

帰り道、気づいたが参加者と思われるノーヘルのバイク乗りをちらほら見かけちょっと興奮め。

ハンドルにビニール袋とか提げてる強者までいた。

その後、ランジッションエリアをうろうろしながら夕涼み。

『浦島』、宿泊先が近くてアクセスが最高です。

半袖、半ズボンで気持ちいい風を受けながら散歩。

夕食後、寝れるかとドキドキ。が、気付いたら朝だった。

さすがの寝落ち。

佐渡の大会はランジッションが一カ所なので準備も楽です。

すでに準備は終わってるので余裕でサイクリングに繰り出す。

が、台風の影響か風がキツイ。海岸線を走り、のぼり区間をちょこっと走り6km程進むと長そうな下りを見つけたので相談。

『下ればまた上らんばけど、どがんする?。』

『戻りましょう。』即決で戻る。

合宿で、ご一緒した事のある『森さん』と合流しランチタイム。

両手に花状態でスーパーの駐車場の芝生でお気軽昼食。

寿司のお弁当が超旨い。曾祢さんが買ってきてくれたイチジクをほおばる。と、お二人は皮をむいて食べてる。

カルチャーショックである。二人が文化人に見えてきた。

ちょっとチクチクする舌を気にしながらまたまたエキスポ会場をウロウロ。チャンピオンシステムに向かい森さん用のボトルをもらう。私は良さそうにみえたゴーグルを購入。

その後、三人で試泳に向かう。

スタート地点から沖に向かって真直ぐに伸びるコースロープには小玉のブイが25Mピッチで、大きめの円筒状のブイが100Mピッチで並んでる。一番沖には黄色の巨大なブイがあった。

遠くに感じた。が、一つ安心したのはコースロープがパンパンにきつく張ってあるので緊急時には掴まれそうなので泳ぐコースはコースロープ沿いと決めた。

試泳で良さそうに見えたゴーグルを使ってみるが水漏れする。

いつものゴーグルに戻しスタート地点からの水深を計る。

100M地点で首の深さだった。(満潮時)

海から上がると寒かった。

宿泊先に戻ると宿の手配でお世話になる『スーパーマンクラブ』の方達と合流。『スーパーマンクラブ』の方々が夕食、バイク組立て、レースギアのチェックと慌ただしく動かれているなか私はのんびり就寝準備。が、ここで思わぬ事実を聞かされる。

(その2)なんと、曾祢さんDNS。

一緒に行動していて気付いてはいたが、たまに変な歩き方になってた。つま先が上がりなくなりいつ捻挫するか分からない状態とのこと。(この決断は正しかったとランコースを走って気付きました。)

残念でたまらなく、チームから一人の出場となり絶対に完走しなきゃとの思いで頭はパニック。

完走できるのか?。いや、意地でも完走してやる。

メラメラ燃え上がる闘志とは関係なく気付いたら朝だった。

レース当日。

5時過ぎにトランジションエリアへ到着。

5時15分からのスイムチェックに備える。側にはサポートに廻ってくれた曾祢さんがいるので心強い。

自分のバイクラックにバイクを掛ける。バイクラックの下には選手用のミカン箱が置いてある。これは便利だ。

スイムは、海パンを履いてからウェットスーツを着用する。

トライスーツは『シャームークリーム』で股間をガードし乾いた状態で着る段取り。

今になって考えると相当テンパってたみたいだ。

スイムチェックに向かう前に、バナナを食べるつもりで準備していたがトランジションエリアの勝手が違ったので何処に置いたかも分からなくなってしまっていた。

チグハグなままスイムチェックへ行く。

途中、自分の顔が引きつっているのが分かる。緊張度Max。

100M程泳いで仰向けになってプカプカ浮く。

顔を上げ立上がり流された方向等をチェック。

潮は干潮寸前で流れはほとんどなかった。

砂浜に上がりスタートを待つ。

この時、『スーパーマンクラブ』の池田さんと合流。

同じくらいの泳力という事で同じポジションから入水する事に。

6時、定刻通りにスタートの号砲が鳴り響く。

スタートといっても遠浅の砂浜を70M程歩き前の選手が泳ぎだすのを合図に次々に泳ぎだす。

コースロープ際はもの凄い密集だった。(大失敗。)

でもどうする事もできない。ただ廻りについていくだけだ。

200M地点だったろうか、右側の選手に激しく押された。

が、前も後ろも左も選手が密集している。思わず左前の選手に乗っかる形になってしまった。

女性だった。

『もう、まだそんな時間じゃないでしょ?。』

『すみません。』

『夜まで、待ってね。』

これで完全にリフレッシュ。

『夜まで、待ってね。』、頭の中でこだまする。

その後、女性選手とははぐれてしまったが、いいペースで泳ぐ選手を見つけ後ろに着く。この選手ほとんどバタ足を打たず、両足親指に紺色のテープを貼っているのも目標にしやすい。しばし平和な時間を過ごすがいいつでも乱入者は突然現れる。荒いストロークと荒いキックを武器に参戦してきた。戦ってるつもりはないのだろうがこの選手の自由気ままな泳ぎに翻弄されてしまいリズムが掴めない。

ストリームラインをとろうと伸びると手を払われたり荒いキックで叩かれたり散々な目にあう。最悪なのは突如、平泳ぎに変る。廻りにはまだ選手がウヨウヨいるので進路を変える事もできない。まして、コースロープ沿いなので右腕が引っ掛かり片手クロールになってしまう。なんとか最初の黄色い巨大なブイまでたどり着く。すると一気に前方がひらけいいスペースを発見。スペース目がけ泳ぐ。が、今度は後ろからプレッシャーを受ける。バタ足を打たない私もある意味目標にされていたようだ。等間隔で足裏にタッチされながら岸に向かって折返す。朝日が眩しくてブイが見えにくい。

案の定、小玉ブイに頭をブツける。見た目とは大違いで固かった。が、泳ぐうちに小玉ブイの存在を忘れ何度もブツける。バカなのか?。多分そうだと思うが仕方がなかった。

100M感覚で配置された円柱ブイを数えつつ泳ぐ。浜が近づいてくるのが嬉しい。だがもう1周なのだ。1周目を終えて浜に上がる。

泳いでいる時に感じていたが右腕が重かった。よく見たら選手チェック用のリストバンドとウェットスーツが干渉して水が溜まり膨らんでいる。修正し水を一口飲んで2周目に向かう。

2周目はバトルはないだろうと思っていたが甘かった。あちこちで4〜5人程のパックが出来上がり時としてパック同士がぶつかりあい粉々になりまた群れる、を繰返す。思ったように泳げないが、池形スイムで習ったタッチクロールを基本に静かな呼吸で息が上がらないように心掛けた。沖の折返しを過ぎるとバトルは自然消滅したのか平和に泳ぐ事ができ、後半は横を泳ぐ選手にペースを合わせ気持ち良く泳げました。スイムアップすると曾祢さんが目に飛び込んできた。いいな〜チームメイトってと心から思えた瞬間だった。

シャワーでウェットスーツを綺麗に洗い、バイクの元へ急いだ。バイクラックにつき着替えようと思ったら更衣室の存在を確認してなかった事に気付いた。

オタオタしながら隠す物はないかと探すが何もない。仕方がないので……………。

トライスーツに着替えヘルメットを被ろうとするとバナナ発見。押しつぶされてヘンテコになってた。バナナは諦めて颯爽と走り出したが逆方向だった。

マーシャルに誘導されてバイク乗車ラインを目指す。普通に考えるとおかしいレイアウトのランジッションエリアだ。入口付近の選手に比べると高齢の選手のエリアが奥で入口付近からコースへ出て行く形になっている。

ヘンテコなトランジションエリアを後にバイクスタート。

風は向い風が吹いてる。

踏み込まないよう心掛けてペダルを廻す。

初めてのコースで分からない事ばかりだが気持ち良く廻す感覚を大切に走る。最初の頃は結構抜かれる。

佐渡はレベル高いな～なんて思いながら10kmも進むと自然と身体も動きだし次第に前方に行く選手を捉え始める。

こうなると知らぬ間にオーバーペースになりがちなので自嘲する意味も含めて補給を早めに多めに摂っていく。

今回の大会は雨の予報だったのでドライフルーツ系は準備せず。バームのキューブ状になったゼリーと、曾祢さんおすすめのクルミ餅と、粉飴をオレンジジュースで溶かしたドリンクで出発。

天気予報は見事に外れ、バイクスタート時は晴天で風がきつく30km付近から15分程、雨が降り出しシューズまで濡れてしまった。テンション落ち気味に進むが海岸線の道路は起伏が続き結構手強い。気持ち切らさず時には日本海の景色を眺めながら気を紛らす。有名なZ坂はさほどの傾斜ではないが同じくらいのスピードの選手が廻りにいて右も左もなく走りづらかった。前半60km辺りの大野亀過ぎまではずっと向い風だった。

島の北端を過ぎると風は追風に変る。が、コーナーが多く前走者との間合いを計りながら抜かなければならないので慎重にならざるをえない。追抜きを掛けている最中にラインをふらつかせて寄ってくる選手がいたりして怖い思いをするシーンもあった。今回、五島『バラモンキング』と同等の空気圧で走り出したが、佐渡の路面状況は荒く今回の空気圧ではハネる箇所が多く乗り心地は良くなかった。(10気圧)

両津港を過ぎる頃、西内選手が主催されるチームの選手と抜きつ抜かれつ。筋骨隆々真っ黒に日焼けされた逞しい選手とのバトルはキツく楽しい。相手の得意不得意を探りながら駆け引きをしながら前後する。エイドで水をキャッチして一気にスパート。

振り切り前方のバックを目指す。

今回一番の難関と聞いていた150km過ぎの小木坂にはいる。

インナーローを基本にクルクル廻していくが右ハムストリングに不安が出始めた。仕方がないのでダンシングでのぼる。

少々キツイがここまで踏み込んでないので身体はキレていた。

ダンシング・休むを繰り返し小木坂通過し、少し先に待受ける坂も無事攻略。小木坂区間でたくさんの選手を抜いたが下りで何人かの選手に抜き返された。コースがわからないので安全第一。

抜かれた選手も全てキャッチ。

残り20kmは、足を休めようと思っていたが向い風にやられた。

平地なのに25km/h位しか出せない。

ジリジリしながら前走者を追う。

残り2km辺りからランコースとバイクコースが被るため安全を確認しながらゆっくり進む。

と、沿道から曾祢さんの声援が飛んでくる。

帰って来れた事に感謝。

最後まで走ってくれたバイクに感謝。バイクがいいとおしかった。

貧脚を支えてくれてありがとう。

足はまだ動く。

ランスタート。

ゼッケンベルトを前に廻して、腰に秘密兵器のなんとかいうバッグをつけて準備完了。最初のエイドでスイカ・コーラを頂き食べれる氷を求めるが準備されていないとの事。

仕方ないのでスポンジ冷却用の氷水をボトルに詰め込み出発。足は動いた。最初の7～8km辺りまでは6分弱。(微妙な上り)折返し過ぎの微妙な下りを攻めた。

ロングディスタンスレースにでて最高の走りができていた。

が、18km辺りで突然膝がパンクした。

飛ばし過ぎだとは重々分かっていた。身体と気持ちが一致して走っていた。気持ち良かった。

なんとか1周回終了。21km／2時間17分

自分との戦いが始まった。

右ひざを少し引きずる形での走りになった。

だがやめる気は毛頭なかった。(頭にもあんまり毛はないが。)

2周回目に入って少し、曾祢さんから声援をもらう。

弱音を吐くうち吹っ切れた。

曾祢さんに『オイの粘りば見せてやっけん。』

そう宣言して走り出した。

進むうちに左ひざにも同様な痛みが出てきた。膝を曲げれない。1キロを身体の状態を見ながら歩く、走るを織り交ぜながら進む。暗くなってくると足下が見えなくなる。照明の数が少なく真っ暗な中をマーシャルの持つ警備棒の明かりを頼りに進んでいくが路面の状況が全く分からない。この時は脛の前側の筋肉が疲労してしまい、つま先が下がったままになってしまっていた。

なのですぐにつまづいてしまう。まして真っ暗な中ではいつ転んでもおかしくない状況だった。

下がってきた気温のおかげか痛みが増す事はなかった。

が、身体は動かなかった。

残り3キロ、過ぎる頃は100M続けて走るのも辛かった。

GARMINの数値の一番小さい数字がたまに増えるのを楽しみに進んだ。残り2キロ、商店街の明かりが見え始める。

沿道の声援に力頂きながら進む。

残り1キロ、商店街の声援にハイタッチで答えながら進む。

最後はちゃんと走ってテープを切りました。

完走できて本当に嬉しかった。

曾祢さんのサポートが本当にありがたかった。

佐渡の皆さんレース環境を与えてくださって本当にありがとうございました。

レースが終わりバイクを押して浦島まで。

シャワーを浴び、夕食をとりバイク梱包を済ませて『スーパーマンクラブ』の方とビールで祝杯。

今回はとっても美味しくいただきました。

宿の手配・チケットでは池形さん横道さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。